

4 土手の再生

日当たりの良い土手で常時草を刈り込んでいる場所は、現在では出現する植物は少なくなっています。里山を保全する場合、雑木林だけでなく、この土手群落も特異な植物が生えていますので併せて保全します。

(1) 常時草を刈る

年に3～5回の草刈りを行なうことで、草丈の低い群落が持続します。初めはササの再生が旺盛ですが、数回刈ると群落高が小さくなります。

(2) 土手に生える植物

2～3年たつと、ツリガネニンジン、ツルボ、ワレモコウ、ウツボグサといった植物が再生してきます。

(3) 放置した土手

放置すると、ススキ、チガヤ、カラムシ、イタドリといった中大型草本が茂ってきます。数年以上たちますと、ウツギ、キブシ、ハコネウツギが混じった低木林になります。



ツリガネニンジン



畑と雑木林の間にある再生された土手



大きな草地のササ刈り



再生途中の土手